

研究ノート

学校保健・学校安全・危機管理に関する研究 群馬県内高等学校における新型コロナウイルス感染症への 対応についての考察 その3

The Study of school health , school safety and crisis management
Correspondence to COVID-19 in the high school in Gunma prefecture part 3

内藤郁芳
Ikuyoshi Naito

Abstract

令和元年度末ごろから世界的に拡大した新型コロナウイルス感染症については、その対応において学校現場における様々な困難な状況を伴ってきた。筆者は、そのような状況の中、学校現場においては、どのような対応をしてきたのかを令和2年度から調査してきた。令和2年度においては、これまで誰も経験したことのない新型コロナウイルス感染症に対する各学校の対応の現状把握を、令和3年度には前年度の経験に基づき、新型コロナウイルス感染症への対応に関する校内の組織体制や指導計画等をどのように点検し変更等を加えたかを調査した。本年度に入り、変異株の発現とその感染拡大等の状況はあったものの、「With CORONA」の対応が進められ、各種の学校行事等がこれまでに比べ実施される状況が見られるようになってきた。そこで今回は、各種学校行事等を実施する際に各学校がどのようなことに留意しつつ行事を実施したか、また、実施にはどのような困難が伴ったかを調査することとした。

キーワード：新型コロナウイルス感染症、学校保健、学校運営、危機管理

I はじめに

新型コロナウイルス感染症の感染拡大とその対応については、すでに2年半以上もの期間が経過している。令和2年2月28日、当時の安倍首相による突然の全国一斉休校要請に始まった新型コロナウイルス感染症対策の各学校への影響は、当初は大きな混乱を招いた。新型コロナウイルス感染症という未知の感染症への対応、分散登校や遠隔授業等これまで実施したことのない学校運営、生徒や教職員に感染者が出た場合の対応等、多くの課題が次々と現れた。

令和3年度に入っても、感染者数の減少は見られず、各学校における対応に多くの困難が伴った状況が続いた。本年度に入り、そのような状況の中で基本的な感染対策が広く一般にも浸透し、「With CORONA」の対応が広まってきており、この2年間中止されてきた学校行事が実施される状況が見られるようになってきた。しかし、そのような状況の中でも、学校という教育現場においては感染拡大が発生しないよう細心の注意を払いながらの運営が続いており、各種学校行事等実施の際には、新型コロナウイルス感染症の発生以前とは異なる対策が求められている。また、感染

状況に応じた行事の実施可否の判断は、依然として簡単には下せない状況も続いている。そのような現状において各学校では行事实施の際にどのようなことに留意しつつ行事を実施したか、また、実施にあたってはどのような困難が伴ったかという実情を調査し、今後の学校保健、学校運営等の参考とするべく考察を加えたものである。

II 方法

1. 調査対象

群馬県内高等学校	78校
内訳	
県立高等学校	59校
公立高等学校	5校
公立中等教育学校	2校
私立高等学校	12校
回答数	76校 97.4%

2. 調査期間

令和4年8月10日（金）～9月2日（金）

3. 調査方法

各調査対象校に対して、本年度当初からの各種学校行事等の実施状況と実施に伴う諸問題について質問

紙法により調査した。行事等が調査時点で予定の場合は、その時点で予想できることの回答を求めた。各学校における回答者は、管理職を想定して作成したが、危機管理の観点から、校長が回答する項目を2問作成した。

質問紙の内容は以下のとおりである。

令和4年度の以下の1)～10)の学校行事等についての実施状況及び実施に伴う諸問題について質問し、具体的な状況等の回答を依頼した。また、11)においては、校長として現在の状況に対する考えを率直に述べていただいた。

- 1) 式典・儀式的行事について
 - ・本年度の始業式
 - ・第1学期終業式
 - ・開校記念日等の行事
- 2) PTA 総会について
- 3) 体育大会・球技大会等体育的行事について
- 4) 文化祭について
- 5) 進路指導関係行事について
 - ・学習合宿・補習等
 - ・進路説明会（学校別・職業別説明会等）
 - ・生徒の大学・専門学校等のオープンキャンパスへの参加
- 6) 中学生向け学校説明会について
- 7) 部活動について
 - ・大会への参加
 - ・合宿・県外遠征等
- 8) 授業の実施について
 - ・実技・実習等の授業
 - ・新学習指導要領への対応
- 9) 修学旅行について
- 10) その他
- 11) 校長回答の設問
 - ・令和3年度から引き続き課題となっており、解決されていないこと。
 - ・現在、校長として苦慮したり、判断に困っていること。

Ⅲ 結果及び考察

1. 式典・儀式的行事について

- 1) 本年度の始業式

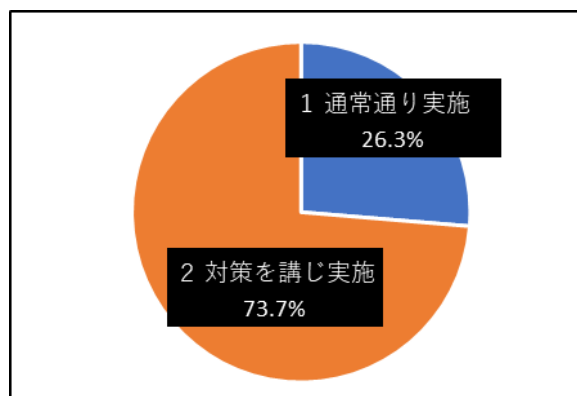


図1 本年度始業式の実施状況

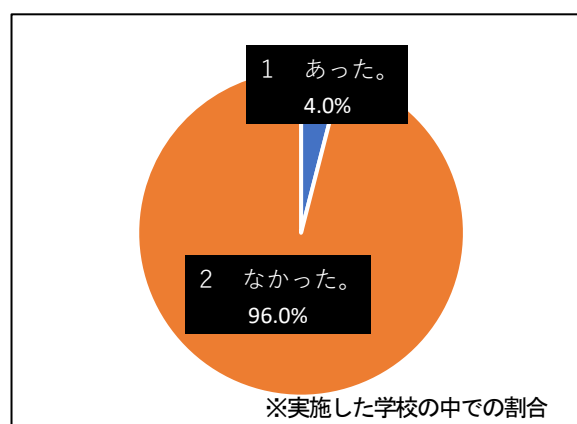


図2 本年度始業式実施上の困難な状況

本年度の始業式については、通常通り実施した学校が、20校、26.3%、対策を講じて実施した学校が、56校、73.7%であった。(図1) 本年2月頃の感染者数からは減少傾向となっていたものの、オミクロン株の感染拡大が続いていたため、各学校が慎重な対応を取ったものと思われる。

マスク着用、手指消毒等基本的な感染対策以外の感染対策は以下のようなものがあげられた。

- ・全生徒対象のリモートで開催。
- ・各教室にて放送により実施。
- ・対面とオンラインのハイブリッド型で実施。
- ・時間の短縮、校歌斉唱を行わない。

また、実施に伴う困難な状況があったと回答した学校は、図2の通り、3校、4.1%と少なく、多くの学校では、行事实施時の新型コロナウイルス感染症対策が浸透してきたためと思われる。具体的な状況は、以下のようなものであった。

- ・校内のWi-Fi環境が脆弱で、同時にリモート視聴可能な端末の台数に制限がある。
- ・直前まで実施の判断ができない。(感染状況に応じて実施方法及び実施の可否判断をする。)

2) 第1学期終業式

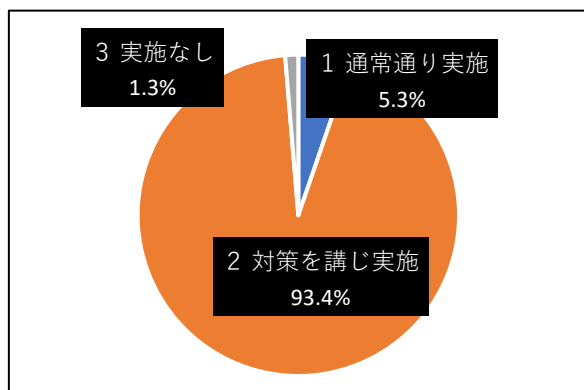


図3 第1学期終業式の実施状況

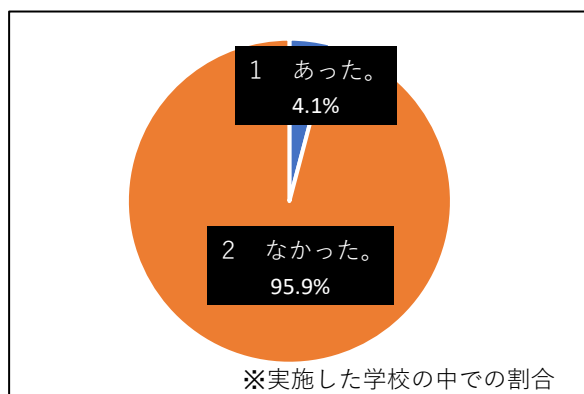


図4 第1学期終業式実施上の困難な状況

本年度始業式と比較して第1学期終業式は、通常通り実施した学校は、4校、5.3%に減少し、71校、93.4%と多くの学校が感染対策を講じての実施となった。

(図3) 感染者が発生し、終業式を実施できなかった学校もあった。これは、オミクロン株「BA5」系統の感染拡大に伴って、7月に入って感染者数が急上昇したことによるものであろう。¹⁾

マスク着用、手指消毒等基本的な感染対策以外の感染対策は以下のようなものがあげられた。

- ・全生徒を集めず、各教室で行った。映像を配信し、教室では電子黒板で視聴した。
- ・3年次生のみ体育館、それ以外はリモートにより各教室に配信。
- ・体育館で実施。時間短縮。校歌は、斉唱せず、CDによる演奏。体育館の換気。間隔を空けて整列。

実施に伴う困難な状況があった学校は、始業式と同様に少なく(図4)、具体的なものについても始業式と同様のことがあげられたが、「従来以上に配慮することが多く、職員の負担が大きい。」との回答もあった。

3) 開校記念日等の行事

開校記念日等の行事については、2割程の学校(16

校、21.1%)で「実施なし。」であったが、多くの学校で感染対策を講じ実施されていた。(図5)

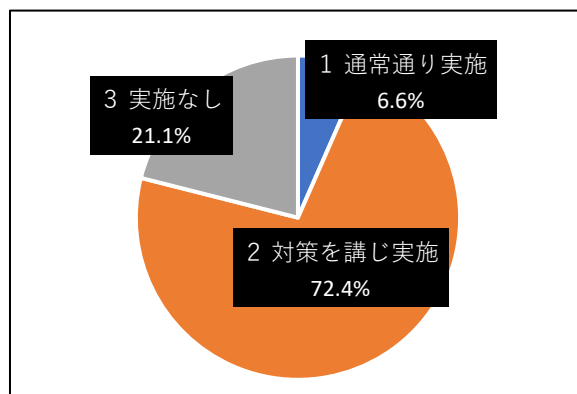


図5 開校記念日等の実施状況

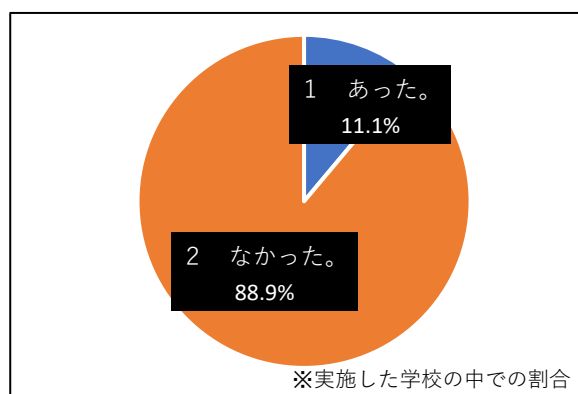


図6 開校記念日等実施上の困難な状況

具体的な感染対策は、以下のようなものがあげられた。

- ・3年生のみ体育館に集め、式典参加とし、1・2年生は教室でのオンライン視聴とした。
- ・2、3年生のみ体育館で参加。1年生は配信された映像を視聴。
- ・来賓(外部からの来客)を招かずに、生徒のみの参加で実施した。
- ・来賓は同窓会長とPTA会長のみとした。
- ・全校集会ではなく、各教室でのオンライン配信での実施。

実施に伴う困難な状況については、始業式や終業式に比べ、若干多くの学校で困難があるとの回答であった。(実施した学校のうち、6校、11.1%)(図6)これは、同窓会やPTA等の外部関係者の参加が関係してくるためと考えられ、来賓の制限をいつ判断するか苦慮したという回答があった。

2. PTA総会について

PTA総会の実施については、通常通りの実施が、11校、14.5%と前述までの行事に比べて多かったが、実

施なしの学校も 22 校、28.9%と多かった。(図 7)

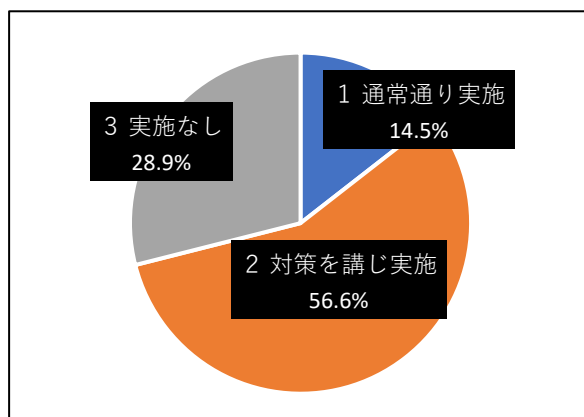


図 7 PTA 総会の実施状況

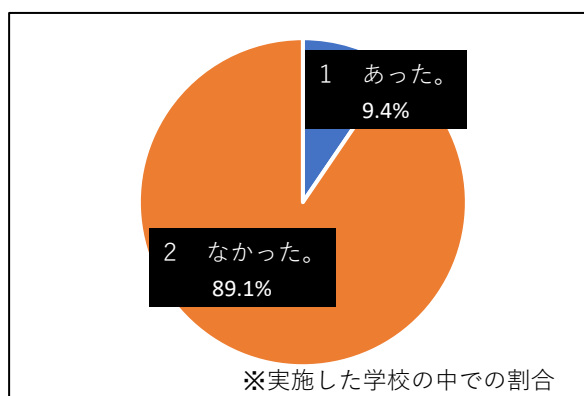


図 8 PTA 総会実施上の困難な状況

しかし、実施なしと回答した学校の半数は、「書面での開催」との回答であったので、対策を講じて実施として扱えば実質的に実施しなかった学校は、11校、14.5%となる。多くの学校で、PTA 総会が 5 月中旬から下旬にかけての日程で実施されていることを考慮すると、感染者数が下火になりつつある時期と一致していること¹⁾や、生徒の進路関係等で保護者に直接来校してもらう必要があったことなどのため実施した学校が多かったものと思われる。

具体的な感染対策は、以下の通りであった。

- ・健康観察表の提出を求め、会場入り口での検温や消毒を実施した。
- ・総会、公開授業参加者は3年生保護者のみに限定し、縮小して開催した。
- ・保護者を少人数になるように複数教室に分配し、リモートで実施した。
- ・ズーム配信も併用しながら行った。
- ・オンラインで配信した。
- ・PTA 総会は書面開催とし、学級懇談会及び授業参観を実施。

- ・書面表決による開催。

実施した学校の中で実施に伴う困難な状況があった学校は、開校記念日等の行事と同様に 1 割程度 (6 校、9.4%) であった。(図 8) やはり外部からの参加者がある行事であるため、始業式等の行事よりも困難な状況が多かったものと思われる。

具体的なものは、以下の通りである。

- ・従来以上に配慮する点が多く、職員の負担が大きい。
- ・縮小されたとはいえ、通常と異なる準備が負担となった。
- ・実施直前での変更だったため、保護者や関係者への連絡等、慌ただしかった。

また、感染対策を講じて実施する予定であったが、当日の朝、1つのクラスで複数生徒の陽性が判明したため学級閉鎖を行うこととなり、急遽、授業公開及び PTA 総会等を中止とし、保護者へ一斉送信メール及び生徒に直接連絡をとらせる対応を取った学校も見られた。

3. 体育大会・球技大会等体育的行事について

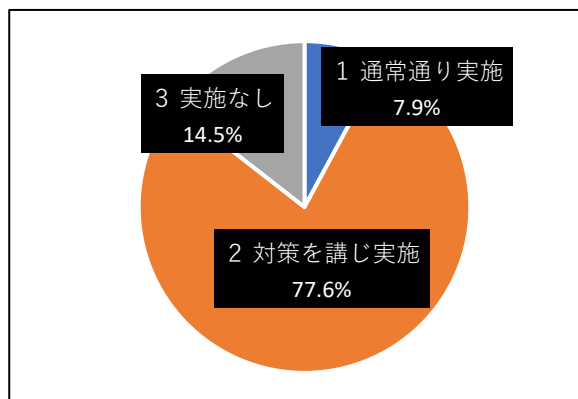


図 9 体育的行事の実施状況

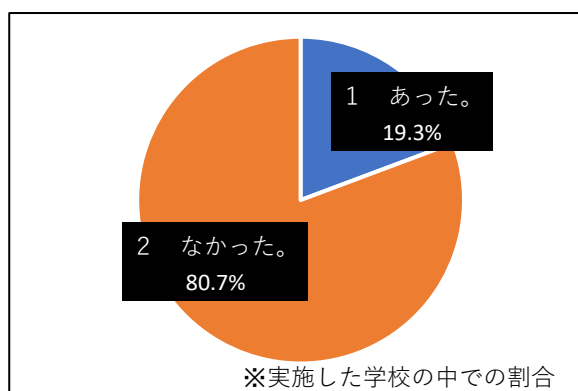


図 10 体育的行事実施上の困難な状況

体育的行事の実施については、図 9 の通り、通常通り実施が、6 校、7.9%、対策を講じて実施が、59 校、77.6%、合わせて 85%以上の学校が、何らかの形で実

施した。新型コロナウイルス感染症拡大が始まってからこれまで体育的行事が中止されてきていたが、今年度に入り、感染対策を講じながら実施する学校が増えたと考えられる。

具体的な感染対策は、以下の通りであった。

- ・競技以外で生徒同士の接触を極力避けさせた。
- ・冷房完備の大規模会場（高崎アリーナ）で実施。
- ・開会式や閉会式では一部リモートを利用。
- ・競技時間の短縮。身体が接触しない競技に変更。応援なし(周囲を取り巻いて声援しない)。
- ・昼食を挟まず、午前中で終了。
- ・全体ではなく、各学年（男女別）で実施。
- ・競技ごとにスケジュールを組み、該当試合の選手のみでの招集により実施。別途、商業競技を教室にて実施し、分散化を図った。試合の様子はライブ配信を行い、一部競技の決勝戦は、教員が実況を行った。
- ・1試合ごとに手洗い、うがい、手指消毒の徹底。タオル・飲み物の共有不可。タオル・飲み物に記名させる。
- ・武道場にモニターを設置し、観戦できるようにした。

実施した学校の中で実施に伴う困難な状況があった学校は、2割程度（11校、19.3%）（図10）であった。これまでの2年間で体育実技の授業内で基本的な感染対策が徹底されており、比較的スムーズに実施できたものと考えられるが、気温の上昇による熱中症対策との兼ね合いや応援による密な状態の回避等の課題があったようである。

具体的なものは、以下の通りである。

- ・密になる状況をどのように回避するか課題となっている。
- ・観戦する生徒の対応。
- ・熱中症対策との兼ね合いに配慮した。
- ・体育館内の種目については、換気に不安があったり、密になりがちだったりするため、特に注意が必要であった。
- ・従来以上に配慮する点が多く、職員の負担が大きい。
- ・実施の可否の判断。

4. 文化祭について

文化祭の実施状況については、通常通り実施の学校はなく、対策を講じて実施が42校、55.3%、実施なしが34校、44.7%であった。（図11）文化祭という行事の性格上、外部の入場者があることなどから、通

常通り実施することは困難であったものと思われる。本年度は文化祭開催の年ではない学校もあったとも考えられるが、開催を見送った学校もあったと思われる。

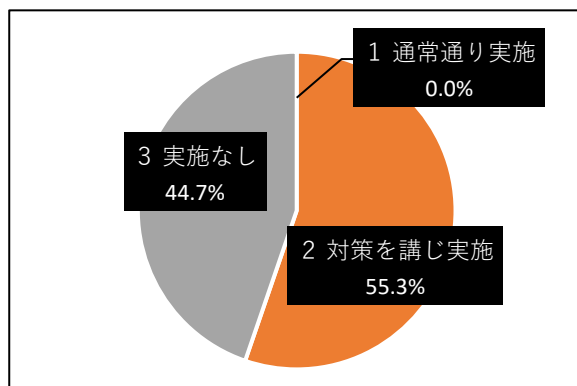


図11 文化祭の実施状況

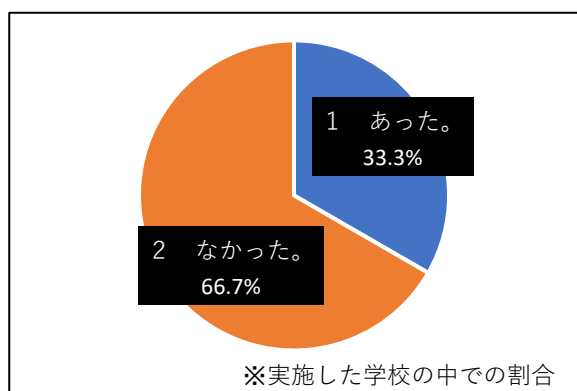


図12 文化祭実施上の困難な状況

具体的な感染対策は、以下の通りであった。

- ・校内発表のみ、規模の縮小。
- ・入場者を保護者に限定して実施。
- ・チケット制で入場者を制限して実施。
- ・来賓・一般の来場を制限(禁止)し、生徒の各家庭の1名のみ来場可とした。また、来場時間も指定し校内の混雑を避けた。
- ・生徒による模擬店（飲食店）を禁止。
- ・食品販売は調理等を行わず、できているものを委託販売、買い取り販売とする。
- ・2日開催を1日に短縮。
- ・来場者数を制限し、2日間の日程を4つのブロックに分けて実施する予定。

実施した学校の中で実施に伴う困難な状況があった学校は、12校、33.3%であった。（図12）一般来場者への対応等予想されるもののほか、文化祭が隔年開催等、毎年開催ではない学校が多いことによる運営面での課題等があったと思われる。

具体的なものは、以下の通りであった。

- ・マスク着用に従わない観客への対応。人との距離が保てない。
- ・入場できないことへの外部からの苦情。
- ・熱中症対策との両立。
- ・制限が多くあることから、文化祭のねらいが達成できるかが課題と考えられる。
- ・教員の負担増が考えられる。
- ・コロナ禍が長引き、文化祭を通常通り実施できない状況が続くことで、職員間や生徒間で、文化祭運営に関するノウハウの継承が困難になってきている。
- ・警戒度を見極めての対応になり各協力業者との折衝、対応が大変であった

5. 進路指導関係行事について

1) 学習合宿・補習等

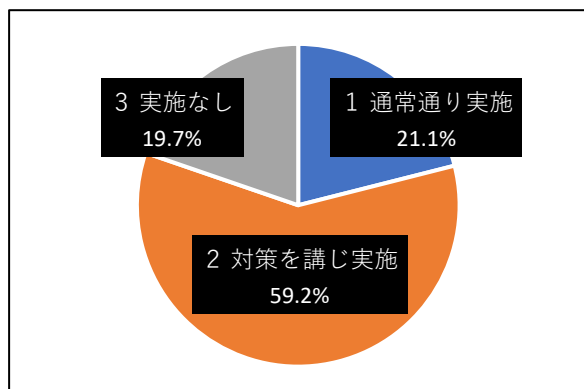


図 13 学習合宿・補習等の実施状況

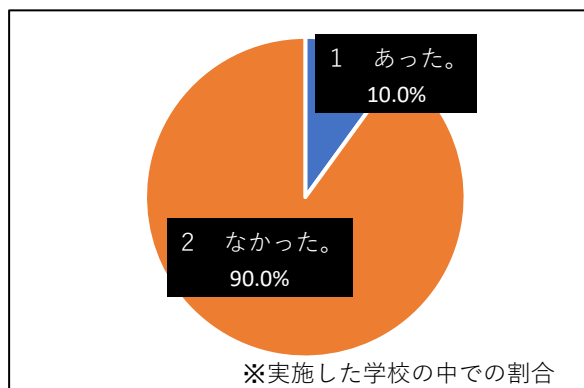


図 14 学習合宿・補習等実施上の困難な状況

学習合宿や補習等の実施状況については、通常通りの実施が 16 校、21.1%、対策を講じて実施が 45 校、59.2%、実施なしが 15 校、19.7%であった。(図 13)

対策を講じて実施した学校のうち 10 校が、宿泊の学習合宿を校内での学習会に変更して実施していた。また、校内での補習については、通常通り実施している学校が多かったようである。

具体的な感染対策は、以下の通りであった。

- ・宿泊ホテルと綿密に協議した上で実施。
- ・一部屋の人数を減らした。
- ・入浴時間指定や食事座席の向きの指定等。
- ・学習合宿を校内での自主学習会として実施。
- ・補習は通常通り実施。
- ・参加人数調査を行い、参加数を確認した上で夏季補習を実施した。
- ・学習合宿はもともと予定無し、放課後補習は通常通り実施。

実施した学校の中で実施に伴う困難な状況があった学校は、6 校、10.0%であった。(図 14) 基本的な感染対策については、宿泊施設も学校も慣れてきているということなのであろうか、ほとんどの学校で困難な状況はなかったと言えよう。具体的な状況では、大きな部屋に大人数を配置できないため、講座数が増え、対応する教員が増員になったり、負担が大きくなった等があげられた。

2) 進路説明会 (学校別・職業別説明会等)

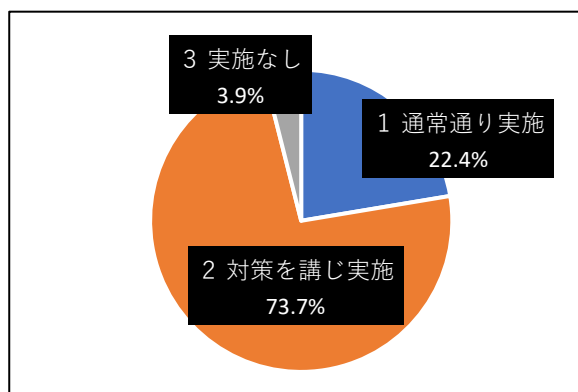


図 15 進路別説明会等実施状況

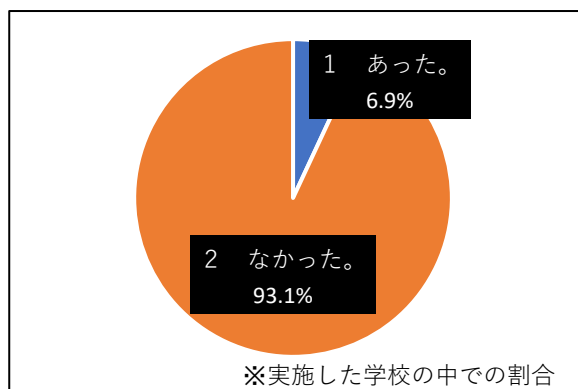


図 16 進路別説明会等実施上の困難な状況

各学校における進路説明会については、実施なしの学校は、3 校、3.9%のみで、ほとんどの学校 (76 校、96.1%) (図 15) で何らかの形で実施されていた。多

くの学校で、進路支援の専門業者に依頼して学校別、職業別等の説明会等が開催されているものと思われるが、業者との協力や会場を外部の大型施設等を利用すること等により、感染対策の強化につなげている。

具体的な感染対策は、以下の通りであった。

- ・全体会を中止し、分科会のみを実施した。
- ・密にならないよう、会場を通常より多く設定。
- ・校内では実施せず、大人数を集められる市民会館で実施した。
- ・対面とオンデマンド配信のハイブリット方式で行った。

実施した学校の中で実施に伴う困難な状況があった学校は、5校、6.9%（図16）と少なかったが、感染拡大状況を見据えながらの実施で、実施日の変更により、運営業者が講師の確保の対応が間に合わず、生徒に分野を変更させなくてはならない状況となった学校があった。

3) 生徒の大学・専門学校等のオープンキャンパスへの参加

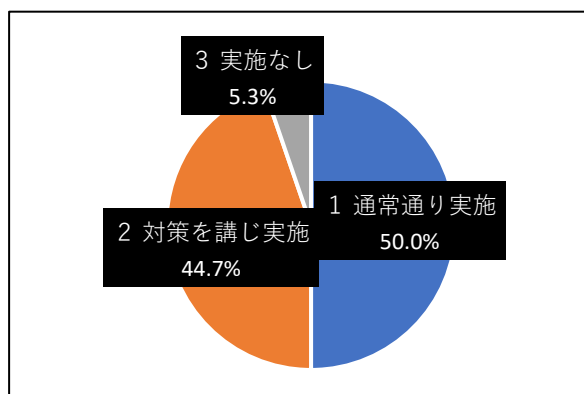


図17 オープンキャンパスへの参加状況

生徒の大学・専門学校等へのオープンキャンパスへの参加については、通常通り実施した学校が、38校、50.0%であり（図17）、半数の学校でこれまで通りの対応となっていた。オープンキャンパスへの参加は、感染対策の徹底を指示したうえで、生徒の自主的な活動という位置づけの学校が多いことの結果と思われるが、学校としての学校見学会等の行事については中止した学校もあった。また、オンラインでのオープンキャンパスも実施されているため支障なく参加できたものと思われる。

具体的な感染対策は、以下の通りである。

- ・各生徒に感染防止対策を徹底するよう指導した。
- ・各大学・専門学校の定めるルールや対策に則って実

施。

- ・感染症予防のため、オンライン参加を推奨(1,2年)。
- ・個別には参加を勧めているが、学校行事としては実施していない。

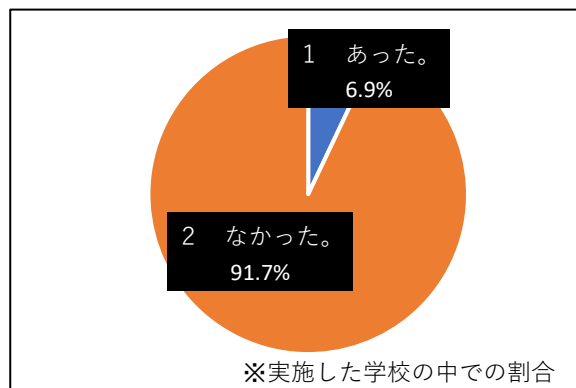


図18 オープンキャンパス参加上の困難な状況

実施した学校の中で実施に伴う困難な状況があった学校は、5校、6.9%（図18）と少なかったが、参加できる学校が制限されてしまうような状況もあったようである。

6. 中学生向け学校説明会について

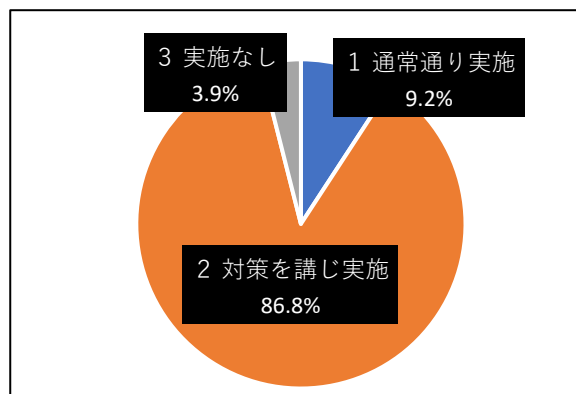


図19 中学生向け学校説明会実施状況

中学生向け学校説明会の実施については、通常通り実施した学校が、7校、9.2%、対策を講じて実施した学校が、66校、86.8%であった。（図19）近年、各学校とも中学生の募集活動が活発に行われており、コロナ禍といえども積極的な活動を行っていたものと思われる。感染対策としては、保護者の参加制限や外部の大型会場を借用しての実施（14校）等の対策が取られていた。また、外部の施設での開催予定であったが、感染拡大のため、中止とした学校もあった。

具体的なものは、以下の通りである。

- ・通常は保護者同伴で行っていたが、参加人数を絞り、生徒のみの参加とした。
- ・各教室に入り、リモートでのオンライン配信とした。

- ・学校説明は、ホームページに載せたものをあらかじめ視聴してもらい、体験授業を中心に通常より時間を短縮して実施した。
- ・受付において、「検温・消毒・健康状態申告書の提出」の協力を求めた。
- ・4日間の日程に分散させ、リモートにより各教室に配信するかたちで実施。
- ・大規模施設を利用し、複数回に分けて開催することで感染防止に努めた。
- ・学校外の会場で実施。保護者の入場はなしで中学3年のみで実施。
- ・市民会館で実施する予定であったが、7月中旬にオンラインに変更した。

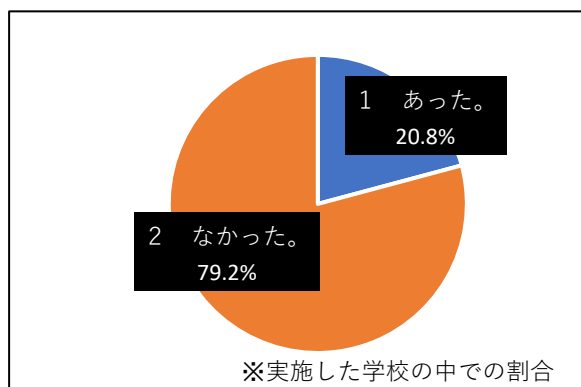


図 20 中学生向け学校説明会実施上の困難な状況

実施した学校の中で実施する上で困難な状況があった学校は、15校、20.8%であった。(図20) 外部からの参加者が中心の行事であり、感染対策等慎重に配慮しながらの実施となったものと思われる。

具体的なものは、以下の通りである。

- ・コロナ禍であり、十分な見学等ができないこと。
- ・少人数班編成により班の数が増え、その分の人材確保が必要となり、難しかった。
- ・夏季休業中の実施であり会場を増やしての実施であったため、教職員の確保・役割分担に苦慮した。
- ・従来以上に配慮する点が多く、職員の負担が大きい。
- ・今年度が校外施設使用は初めての試みであったため、準備等に時間を要した。
- ・オンラインへの変更連絡が実施1週間前となり、中学校教員から苦情をいただいた。

7. 部活動について

1) 大会への参加

部活動の大会への参加については、図21の通り、ほぼすべての学校で、県教育委員会や県高等学校体育

連盟の指示にしたがい、参加していた。

具体的な感染対策は以下の通りである。

- ・群馬県教育委員会からの指示に従い、安全性や参加の必要性等を検討した上で大会に参加。
- ・生徒の健康状態の確認を行いながら参加した。
- ・事前・事後の健康観察や移動時の感染防止対策。
- ・日々の健康観察をしっかりと行わせ、少しでも症状のある生徒は、参加しないよう指導を徹底した。

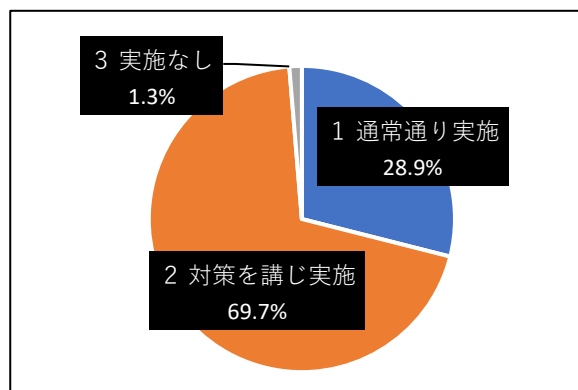


図 21 部活動大会への参加状況

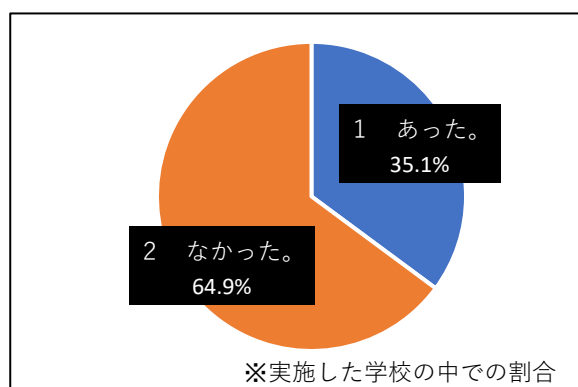


図 22 部活動大会参加上の困難な状況

大会に参加するうえでの困難な状況については、26校、35.1%の学校であったとの回答があった。(図22) 部活動内で陽性者が出て、大会出場を辞退したケース等もあり、出場の可否の判断や生徒への指導やケア等に苦慮した状況が見られた。また、そのような場合、競技種目によって参加の可否が違うことがあり²⁾、校内の対応に苦慮したこと等もあったようである。

具体的なものは、以下の通りである。

- ・部活動内で複数の感染者が出たため大会への出場を辞退したケースがあった。
- ・複数の感染者が出た場合、状況を把握したり参加可能かを確認したりする必要があり、対応に苦慮した。
- ・1回戦は勝ったが、その後複数の感染者がでたため、2回戦を辞退せざるをえない大会があった。

- ・部員が陽性になったため、濃厚接触者に認定され、大会への出場が叶わなかった生徒については、今後の関係性に問題が生じないように配慮が必要であった。
- ・感染経路不明なケースが増え、大会前の検査(抗原やPCR)を実施したにもかかわらず感染生徒が発生し、対応に苦勞した。
- ・競技により対応が異なり、個別に検討する必要があった。
- ・定時制全国大会に当たって、試合中に接触機会の多いバスケットボール競技は、出場を辞退した。このことについて、選手及びその保護者への説明に長時間を要した。

2) 合宿・県外遠征等

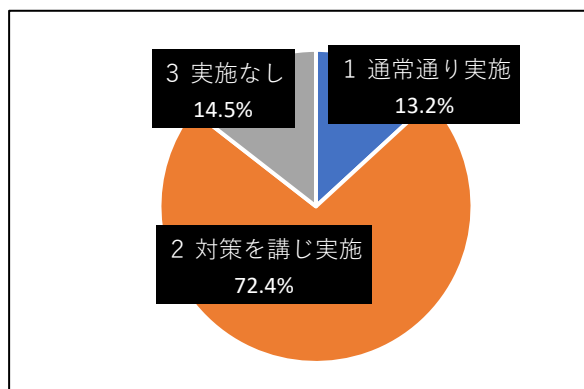


図23 部活動合宿・県外遠征等の実施状況

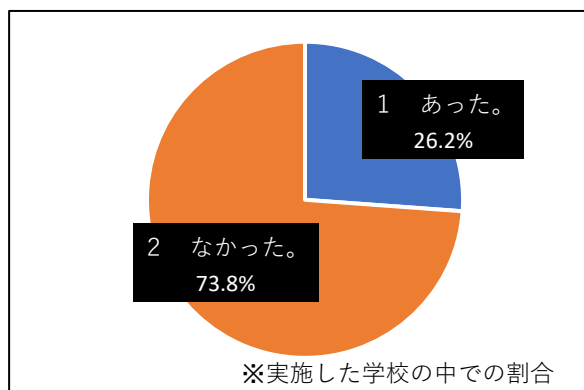


図24 部活動合宿・県外遠征等実施上の困難な状況

合宿や県外遠征等については、通常通り実施が、10校、13.2%、対策を講じて実施が、55校、72.4%と多くの学校で何らかの形で実施されていたが、実施を中止した学校も11校、14.5%あった。(図23)

大会への参加と同様に県教育委員会や群馬県高等学校体育連盟の指示にしたがい、各学校において慎重に検討し、実施あるいは中止等の判断がなされたものと思われる。宿泊を伴わない計画にしたり、生徒や保

護者への説明を十分に行ったりという対応が見られた。

具体的対策は以下の通りである。

- ・群馬県教育委員会健康体育課と高体連の指示により、全国的なコロナ感染状況を考慮しつつ、学校としてその必要性を判断しながら、保護者の同意を得て実施した。
- ・宿泊を伴わない範囲で実施している。
- ・県外遠征については、宿泊自粛を条件に実施した。
- ・合宿は行っていない。また県外遠征も必要性を十分検討し慎重に対応した。
- ・宿泊はシングルの部屋の確保を要請。困難な場合でも2人までとし、各食事は分散でとるようにした。
- ・保護者会を開いて細かく説明した。参加一週間前から健康チェックを厳しくさせ、必要に応じて医療機関に受診させた。
- ・保護者の同意書を取っての実施とした。

実施した学校の中で、実施するうえで困難な状況があった学校は、17校、26.2%であった。(図24) 大会参加と同様に、直前になって感染者や濃厚接触者が出て、判断に苦慮したり、校内や遠征先の感染状況に左右される場合が見られた。

具体的なものは、以下の通りである。

- ・感染症対策の徹底と部活動実施を両立することの難しさ。
- ・校内の感染状況に参加等を左右されてしまうことがある。
- ・県外遠征の出発直前に濃厚接触者が出て実施の可否の判断が難しくなるケースがあった。
- ・宿泊を自粛したので、実施可能な学校が制限されてしまった。
- ・生徒が参加することに対して、保護者の理解が得られないケースがあった。
- ・顧問の高い意識と安全面への配慮のバランス。
- ・通常時よりも費用がかかってしまうこと。

8. 授業の実施について

1) 実技・実習等の授業

実技・実習の授業については、すべての学校で通常通りか、対策を講じての実施となった。(図25) 基本的な感染対策が生徒にも浸透してきており、実技や実習においても何らかの対策を講じて実施されたものと思われる。

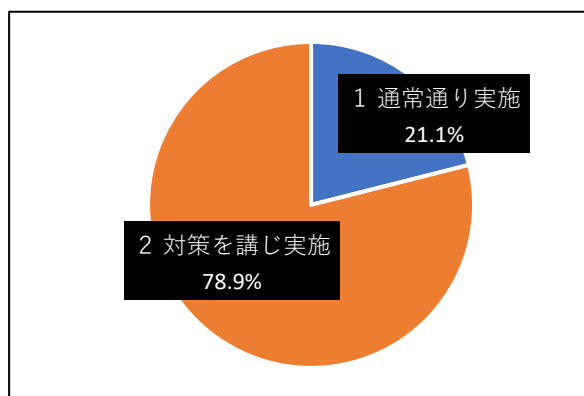


図 25 実技・実習等の授業実施状況

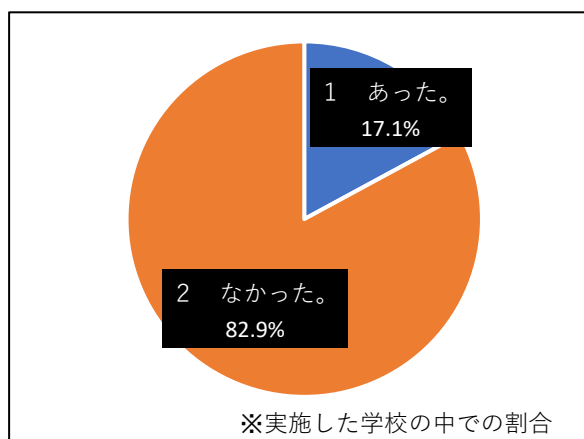


図 26 実技・実習棟尾授業実施上の困難な状況

具体的な感染対策は以下の通りである。

- ・高校教育課等の指導事項を遵守し、実施している。
- ・少人数制により行った。
- ・接触の多い体育実技や調理実習は他の活動に切り替えて実施。
- ・調理実習については、学校での試食を中止した。
- ・音楽ではマスク着用での歌唱または大きな特別教室での間隔を空けてのマスクなしの歌唱、家庭科では調理実習の見合わせ等を行っている。

実施するうえで困難な状況があった学校は、13校、17.1%であった。(図 26) 特に、体育実技においては、感染対策と熱中症対策を並行させなければならず、困難が伴ったと思われる。

具体的なものは、以下の通りである。

- ・生徒への指示の徹底。
- ・熱中症対策も合わせて実施する必要がある。
- ・農業科の校外における販売実習が困難である。
- ・体育科、家庭科、芸術科(音楽)、農業科等、実技を伴う教科・科目における学習内容が制限される。
- ・調理実習については、施設や教員の人数に限りがあるため、クラス単位(40人)の授業ではリスクを回

避する手立てがとりにくいため、実施できない。

2) 新学習指導要領への対応

新学習指導要領が本年度から年次進行で実施されており、各学校が感染対策を講じつつ授業を実施していることであるが、図 27 の通り、4分の1程度(18校、23.7%)の学校で実施するうえで困難な状況が見られた。新学習指導要領に基づくグループワーク等の学習形態で実施困難な場合が見られた。

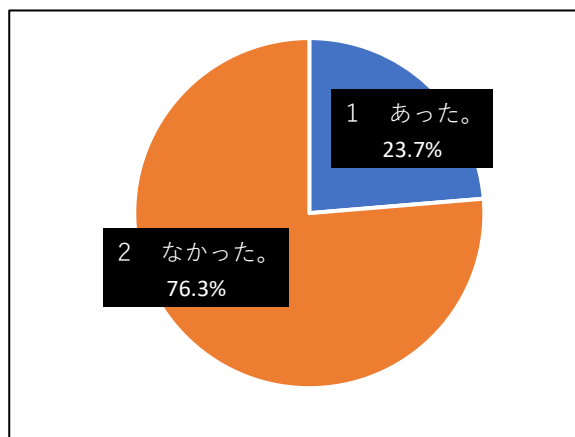


図 27 新学習指導要領実施上の困難な状況

具体的なものは、以下の通りである。

- ・主体的・対話的で深い学びを実現する上で、特に、協働的な学びに制限が見受けられた。
- ・ディスカッションやディベートなどを通じたアクティブラーニングが実施しづらい。
- ・対話的な授業や声を出す授業(グループワーク、歌)等については、リスクが伴うこともあり、実施が難しい。
- ・総合的な探究の時間の実施に当たり、地域の企業をはじめとした外部との連携に苦慮した。
- ・従来以上に配慮する点が多く、職員の負担が大きい。

9. 修学旅行について

修学旅行については、図 28 の通り、29校、38.2%の学校で通常通り実施、対策を講じて実施が43校、56.6%であったが、実施しない学校も4校、5.3%あった。昨年度の時点で、90%以上の学校で見直しや検討を行っており、本年度は通常通り実施の学校が4割弱と比較的が多くなったのではないと思われる。具体的な対策としては、行き先の変更をした学校が、表1のように32校となっている。

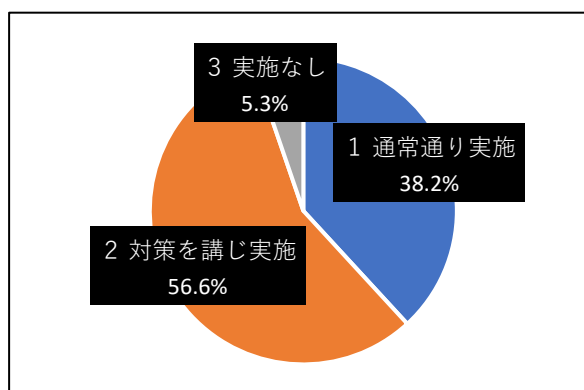


図 28 修学旅行実施状況

表 1 修学旅行の行先変更の状況

沖縄から関西方面等	16
沖縄から関東方面	2
沖縄から九州方面	1
沖縄から北陸方面	3
沖縄から東北方面	1
広島から京都	1
国外から国内	8
計	32

また、調査時点では実施前の学校が多く、行き先変更や日程の変更等を含めて検討中や感染状況によっては変更もありうるという学校も多かった。

具体的な対策は以下の通りである。

- ・現時点では、通常通り実施を予定している。行き先、期間等の変更についても並行して検討中。
- ・保護者説明会やメール等で理解・同意が得られた上で、時期を変更して実施（2年から3年へ変更）。
- ・保護者へアンケートを実施し、11月沖縄から変更し、行き先及び日程については検討中。

実施または実施予定の学校の中で実施するうえで困難な状況があるという学校は、32校、44.4%であった。（図29）感染状況の落ち着きや軽症化等があったものの、多人数の集団で数日間同一行動をとる修学旅行については、やはり実施する上で慎重に対応しなければならないことが多く、生徒の心情や保護者の意向等も酌まなければならないこともあり、各学校が苦慮している状況がうかがわれた。また、直前の変更や中止等の場合のキャンセル料の発生等の保護者負担について苦慮している学校もあった。

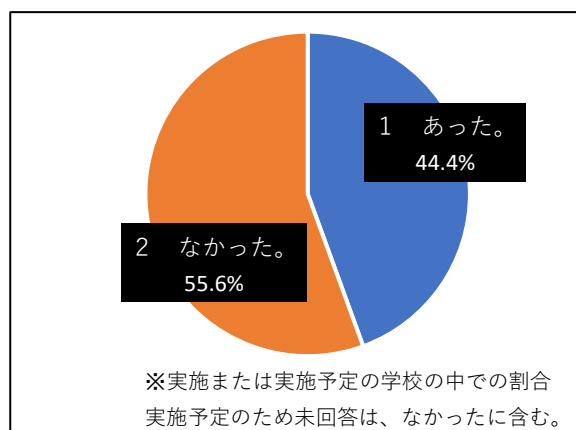


図 29 修学旅行実施上の困難な状況

具体的な内容は、以下の通りである。

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況が刻々と変化することへの対応。
- ・現地でコロナ感染者、濃厚接触者が出た場合の対応は困難が予想される。
- ・延期や中止の場合に備えてキャンセル期限等の確認、旅行先でのコロナによる体験等の急な変更など、旅行社との折衝が従来以上に数多くあり、負担が増えた。
- ・キャンセル代や企画料の負担への対応等に苦慮しながら日程等の検討をすることの負担が大きい。
- ・コロナ感染者急増に伴い、実施直前の罹患者や濃厚接触者の出現に備え、保険の加入を検討している。
- ・コロナ禍に宿泊を伴う活動を行うに当たり、不安を払拭する対応ができず、不参加を表明する生徒が多くでってしまった。
- ・多くの学校が方面変更をしているせいか、宿の確保に苦慮した。
- ・従来以上に配慮する点が多く、職員の負担が大きい。

10. その他

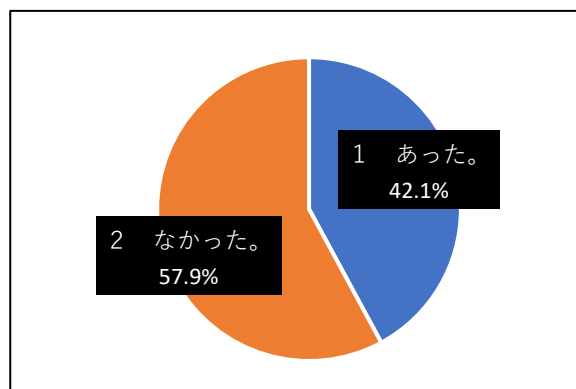


図 30 その他の活動実施上の困難な状況

前記1～9までの項目以外の学校運営全般について、

実施する上で困難な状況があったかという問いに対しては、32校、42.1%があったと回答した。(図30)

感染拡大が3年近くにも及ぶ中で、社会全体の対応と学校行事の実施判断の兼ね合いや、未だ終息が見えない中での教育活動の推進等、様々な面で苦慮している状況がうかがわれた。

具体的な内容の主なものは、以下の通りである。

- ・全国的、全県的な新型コロナウイルス感染状況によって、どこまでの感染対策を行うのかが異なるので、学校行事の計画に見通しを立てにくい点がある。
- ・社会全体で行動制限がかからない中、学校では8月になってから部活動を中心に感染が広まっており、学校としては苦慮している。さらに濃厚接触者の待機期間短縮の通知が県教委から出されるなど学校としては引き締めの対応を求めたいところであるが逆の対応になっている。
- ・コロナ禍以前に比べ、学習内容や学校行事の企画において、教員の指導が簡略化している様子が見られる。内容の充実と感染対策との両立に苦慮している。
- ・初期のコロナ感染の時から比較すると、教職員も感染予防策等の対応に慣れてきてはいるが、依然として先が見通せない状況のため、目に見えない精神的疲労の蓄積が心配。部活や行事が中止、延期されてしまって再開する場合に、生徒や教職員にノウハウが引き継がれておらず、手探りの状態から始めていかねばならないことがあり、準備等に時間がかかることがあった。
- ・全校集会再開のタイミングが難しい。1学期の始業式、終業式は各教室への配信で実施したが、2学期以降、特に卒業式については、全校生徒を同一会場に集めて実施できればと考えている。これに付随して、校歌等を歌わせるかどうかの判断も課題である。
- ・地域社会と連携する学校行事や各種行事(不特定多数の方との接触が生じるもの)の実施については、全面実施に踏み切ることを見送っている状態である。再開の目途については保護者の理解を得られるエビデンスの提示ができる状態となることが条件であると考えている。
- ・第7波が始まって以来、急増する陽性者や濃厚接触者への対応に時間が割かれることで、教職員の仕事量が確実に増えている。

11. 校長回答の設問

1) 令和3年度から引き続き課題となっており、解決されていないこと。

令和3年度から引き続き課題となっており、解決されていないことがあると回答いただいた校長は、37校、48.7%であった。昨年度の調査では、45校、57.7%と6割の回答であったことと比較すると1割程度の減少であるが、依然として約半数の学校で前年度からの課題が解決されていない状況である。

昨年度の時点で解決されておらず、今年度も回答があったものは、生徒全員への情報端末の配付に伴い、情報機器等の活用能力の職員間の格差があることや、感染者や濃厚接触者が出た場合の対応や日々の感染対策等で職員の負担が増加すること等であった。一方、新たな課題として、コロナ禍の中、新学習指導要領の年次進行の実施が始まり、観点別評価に関することや総合的な探求の時間の実施についての課題をあげていただいた校長もあった。

主な具体的な記述は、以下の通りである。

- ・一人一台端末の活用について、教員間に大きな差があること。
 - ・職員研修等を通じてICT機器の活用を推進しているが、まだまだ活用能力の個人差が大きい。学校全体として活用能力の向上を図る必要がある。
 - ・現在においても、コロナ感染症の収束が見えない状況にあることから、生徒の安心で安全な学校生活の確保に向けた取組(感染防止対策等)を継続すること。また、刻々と変化する県内感染状況を鑑み、学校行事等の規模縮減や体育行事を実施できない場面が多い。
 - ・陽性者が出た場合に養護教諭や担任など、一部の教員に過度な負担がかかってしまうこと。
 - ・生徒の健康を守るために教職員は、登校時の検温、昼食時の巡回等を継続しており、教職員の負担感には否めない。
 - ・新型コロナウイルス感染状況に波があり、先の行事の見通しが持てないこと。
 - ・コロナ対応で、入試等での対策のためにこれまで以上に人手が必要である。
 - ・教育活動が制限される中での教職員のモチベーションの維持。
- 2) 現在、校長として苦慮したり、判断に困っていること。

最後に、校長として現在苦慮していることについての質問であるが、49校、64.5%の校長から回答をいただいた。一昨年度には、72校、92.3%の回答をいただき、昨年度は、68校、87.2%であった。昨年度からは21校、20%以上の減少が見られたが、依然として多くの校長が、学校運営の様々な面で苦慮している状況がうかがわれた。

新型コロナウイルス感染症拡大の状況が3年にも及び、基本的な感染対策については、教職員や生徒にも浸透してきているとはいえ、学校行事等実施の判断に迷う様子が依然として続いている。昨年度、13校からの記述があった修学旅行の実施や計画変更の判断は、本年度も9校から苦慮しているという回答があり、減少してはいるものの、予定変更に伴うキャンセル料の発生等の問題もあり、引き続き各学校での困難な状況がうかがわれた。そのような状況の中でも、生徒のために学校行事は可能な限り実施していきたいという校長の強い意思を感じられる回答が多かった。

キャンセル料については、本調査後(10月)、県教育委員会から「修学旅行の中止や延期に伴う追加的経費の支援に係る申請要項について」³⁾が発出され、支援が受けられることとなり、感染状況を注視しながらの判断が多少しやすくなったことと思われる。

主な具体的記述は以下のとおりである。

- ・現在においても、コロナ感染症の収束が見えない状況にあることから、生徒の安心で安全な学校生活の確保に向けた取組(感染防止対策等)を継続すること。また、刻々と変化する県内感染状況を鑑み、学校行事等の規模縮減や体育行事を実施できない場面が多い。
- ・これまでにコロナ対応でオンライン授業の実施を考えたこともあったが、本校の生徒の家庭環境(インターネットの環境が整っていない等)や本校生徒の学習への取組状況から実施は困難で、学年別登校で対応してきた。今後、再び学校への登校が困難になった場合に本校はどのような対応をするべきなのかという課題を今も抱えている。
- ・新型コロナウイルス陽性者の自宅療養期間や濃厚接触者への対応が自治体によって異なっていることが多い。陽性者が出た場合の学校対応を決める際、保健所の追跡調査はなく、学校医との話し合いのもとで判断していくが、学校医も自らの医療活動に従

事しているため、判断するまでのタイムラグが大きい。

- ・有事(特に、週休日)の際に学校医の指示や県教委との協議等を含めて、時間的猶予のない中での最善策の模索が難しい。
- ・コロナ対応がいつまで継続するのか、先の見えない状況に苦慮している。学校行事の実施に当たって、見通しが立たない状況に不安を感じる。
- ・コロナウイルスの流行も3年目となった。3年経過すると、生徒もPTA役員も入れ替わる。多くの学校行事・PTA行事等が実施できない状況が継続し、更に職員の異動の状況も加われば、多くの行事が再開される場面において、今後は困難が生じると思う。
- ・感染防止対策の実施等については、生徒・保護者・職員の理解を得られ学校全体で取り組んでいるが、学校行事については、一部職員の慎重な考えや実施に消極的な意見が強く、実施できない状況にある。今後、コロナ感染症がある程度収束した場合にも、しばらくの間は学校行事の実施に関して消極的な意見が出される可能性があるのではないかと危惧している。
- ・行事のたびに新型コロナウイルス感染状況を考慮し、実施計画を複数用意する必要がある。また行事の直前に陽性者が複数出るなど突然の変更を余儀なくされる場合もあり、精神的負担となっている。
- ・修学旅行等、大きな行事を行う際に、数ヶ月前に実施の判断をする必要がある。コロナウイルス感染症の今後の状況判断が難しい。近隣の高校と情報共有しているが、独自の判断が必要な場面が多い。
- ・10月実施の2学年沖縄修学旅行の実施判断について。昨年度はキャンセル料の県負担があり保護者の負担なく中止(1日旅行で代替)できたが、本年はどうなるか。保護者負担が増えないかが最重点で検討中である。
- ・コロナ禍で規模を縮小した行事等を、コロナ禍後、どのようにするかという方向性の判断に困っている。
- ・コロナ後遺症の診断書が出され休んでいる生徒がいる。リモート授業による参加等を促しているが、起き上がるのも辛くてなかなか参加できないという。今後出席についてどのように考えるか苦慮している。

- ・オミクロン株への置き換わりにより、4月当初より生徒の感染者が急増し、学校行事の開催や部活動の大会参加の判断に苦慮する事案が増加した。特に、部活動の大会参加については、各競技団体の参加可否判断の規準はあるが、各学校間において判断の差が見られ、どこにも判断の目安となるラインがなく苦慮した。最終的には学校医の判断をもとに学校独自の判断をせざるを得なかった。
- ・濃厚接触者の判断や報告書の作成で教頭を中心とする担当者に負担がかかっている。

IV まとめ

3年の長期に渡り感染状況が続いている新型コロナウイルス感染症への対応は、今年度に入り「With CORONA」の対応が進められ、各種学校行事等がこれまでに比べ、実施される状況になってきた。そこで今回の調査では、各種学校行事等を実施する際に各学校がどのようなことに留意しつつ行事を実施したか、また、実施にはどのような困難が伴ったかを調査した。

感染拡大が始まった一昨年度から、各学校とも変わらず学校における教育活動を停滞させることなく進められるよう努力してきた。しかし、教育活動を実施していく上での課題等については、基本的な感染対策等を除き、依然として約半数の学校で解決されないままの状態が続いており、校長として苦慮しているとの回答も6割を超える校長から寄せられた。

学校行事の実施可否の判断や部活動の大会参加の判断等では、県教育委員会や県高等学校体育連盟の指示に従いながら判断をしているものの、学校及び地域の感染状況、在籍生徒数や学校施設の状況、その他、各学校により様々な違いがあるため、各学校の判断に任されている状況である。⁴⁾ 加えて、今冬にはインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行も危惧されている。このようなことから、昨年度提言したように、「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン」(文部科学省 R3.6)⁵⁾等を参考に、各学校における感染症への対応を含んだ危機管理マニュアル及び組織体制の再検討を、ここでもう一度行っておく必要があるのではないだろうか。さらに、そのような再検討を短いサイクルで実施し、学校内のさまざまな機能に対して同時に対応できる総合的な危機管理体制を構築していくことも必要となるので

はないか。

また、昨年度まで中止や規模を縮小せざるを得なかった学校行事、特に文化祭やPTA総会等、生徒や保護者の入れ替わりが影響を及ぼすような行事については、そのノウハウの伝承を含めて実施方法の再検討も必要であろう。

前述のように新型コロナウイルス感染症の感染状況が収まらない中、インフルエンザの同時流行も危惧される状況があり、引き続き学校現場における教育活動の推進には、様々な困難が伴うことが予想される。各学校において本調査結果が各学校間の情報共有の一助になれば幸いである。

【参考文献】

- 1) 厚生労働省感染症情報
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/index.html
- 2) 群馬県高等学校体育連盟「新型コロナウイルス感染症に係る群馬県高体連主催大会等実施ガイドライン」(R4.6.1)
- 3) 群馬県教育委員会 高教 421-54号「修学旅行の中止や延期に伴う追加的経費の支援に係る申請要項について」(R4.10.20)
- 4) 群馬県教育委員会 高教 311-9号「新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大に伴う県立学校の対応等について」(R4.8.18)
- 5) 文部科学省「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン」(R3.6)